



J-PARCにおける宿泊施設と交通手段に関するユーザーへのアンケートへの対応状況について



平成22年6月に実施しました、J-PARCにおける宿泊施設と交通手段に関するユーザーへのアンケートにつきましては、92人（うち、日本人72、外国人20）から貴重なご回答をいただきました。これらに対する対応状況をご報告させていただきます。

【ユーザーアンケートの対応状況】

1. 宿泊施設について

[主な要望] ①宿泊施設や部屋数の不足

②原科研から真砂寮までの道路に夜間照明がなく、暗い箇所がある。

③阿漕ヶ浦クラブの空き室確認、予約及びキャンセルをホームページ上で行いたい。

[講じた措置]①宿泊施設の増強を図るため、いばらき量子ビーム研究センター北側に49室を備えたユーザー用宿泊施設を建設中であり、平成23年1月から利用を開始する予定である。

②国道245号線沿い歩道の夜間照明を確保するため、本年12月までに、30m間隔で8本の防犯灯を設置するとともに、真砂寮入口付近の外灯2本についても道路用に改修した。

③阿漕ヶ浦クラブ等の内部宿泊施設は厚生施設との位置づけであるため、HPを活用した外部向けのサービス提供ができない。そのため、ユーザーズオフィスにて毎日の予約情報を阿漕ヶ浦クラブから入手し、的確かつリアルタイムに近い情報の把握に努めることとした。

以上のほか、①部屋の清潔感など快適性の向上、LAN設備、バス及び備品の充実、②内部宿泊施設のチェックイン、チェックアウト時間及びレストラン営業時間の延長、③内部宿泊施設の食堂メニューの充実及び当日オーダー制の導入など多くの要望をいただいているため、内部宿泊施設の所管部署との間で協議を継続し、引き続き改善を図っていくこととしている。

2. 交通手段について

[主な要望] ①宿泊施設からJ-PARCまでの移動手段が不便。特に雨の日や夜間。

[講じた措置]①核サ研が所有する業務車両のうち継続使用可能なものを原科研構内での利用に限り、ユーザーに対して貸し出すことを検討中である。原科研の外での移動については、今後の検討課題であるが、安価なレンタカーの斡旋は引き続き行っていく。

以上のほか、①東海駅からのバスや水戸駅、勝田駅、宿舎からのアクセスの充実、②空港からのアクセスの充実などについて要望を頂いているため、自治体に要請するなど、引き続き改善を図っていくこととしている。

3. J-PARCについて

[主な要望] ①食事環境の充実

②予想できないビームダウンやトラブル等でのビームストップの発生防止。発生した場合の事前連絡など迅速なアナウンス。

③いばらき量子ビーム研究センター前の信号機付き横断歩道の設置。

[講じた措置]①MLF東側にレストハウスを設置し、本年10月1日から弁当、おにぎり、サンドウィッチ、パン等を販売している。営業時間は、平成22年度中は11:30～13:30であるが、平成23年4月からは11:30～15:00まで拡張する予定である。飲料品の自動販売機も設置済みである。

②利用者の方々にご迷惑がかからないよう、J-PARCセンター一丸となって、より一層の安定運転に努めていくこととしている。トラブル等の発生時には、これまで、Web等なども活用して利用者に対する迅速なアナウンスに心がけてきているが、今後一層の迅速にアナウンスできるよう努めていく。

③国道管理者に対して、今後予定されている国道245号線拡幅に伴い、いばらき量子ビーム研究センター出入口箇所中央分離帯の切断及び信号機の設置について依頼しているところである。



以上のほか、①世界に開かれた最先端研究施設に相応しい管理区域出入管理や施設運営、②JRR-3との窓口との共通化、③ユーザー控え室及び仮眠室の設置、④夏季の構内食堂のエアコン運転期間の延長などの要望を頂いており、改善が図れるものから検討していくこととしている。